

高津区おはなしアーカイブ

- 三富 瑤子 (みとみ ようこ) さん
昭和17年生まれ 75歳
川崎市高津区久本在住



◆フィオーレの森

久本で生まれ育ちました。家は古く、築百年くらいで広い庭と雑木林があって、結婚してからも親子3代で住んでいました。子どもも3人になって、それぞれ個室も必要となり、両親と3年がかりで相談の上、新築しようということになりました。

日当たりのよい場所ということで、元自宅の後の丘を平らにして移りました。

元自宅の後の使い方をいろいろ考えた末に今のような「フィオーレの森」というホッと安らげる空間を、と思いついたのです。

ちょうど来年で20年になりますが、ここまで来るためには大変な努力があり、両

親・子ども・テナント様など多くの方々のお力添えがあったからこそ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今は娘たちが後を継いで一手に引き受けてくれています。

◆通園、通学

子どもの頃は、久本地区全体が畑と田んぼで大きい建物は全く無く、羽田空港まで見え、花火大会等も全部見ることができました。

幼稚園には1人で歩いて行きました。宗隆寺の中にあって1年間通いました。川が流れていて、子どもから見れば段差のところは滝のようで怖かったです。

幼稚園ではお絵かきをしたり、歌を歌ったりしました。島崎先生をよく覚えていて、クレヨンが丸ではなく四角だったのが印象的でした。

小学校は高津小学校です。まだその頃は久本小学校や東高津小学校もなかったのです。家からは遠かったです。皆さんも下野毛、北見方の遠くから歩いて通っていました。10クラスあり、1クラスは60人で教室も足りなくて、二部授業でした。給食は美味しくなかったです。アメリカからの援助物資で来た脱脂粉乳のミルクやカルピス等で、今と違ってものすごくまずかったのを覚えています。あの困難な戦後の時代にどちらの親も大変だったと思います。

◆戦時中のこと



(夫の三富末雄さん・78歳と)

主人は昭和14年生まれなので戦争の記憶もありますが、私は昭和17年生まれで幼く、父が出征していますので、何かあったら大変と、空襲があるとすぐ叔父が防空壕に連れていったそうです。自宅横の山の下には大きな防空壕があって、これもお国の命令で印1つで掘り始め、終わった頃に終戦になって、軍需工場は出来なくなり、幼い頃はよくここで遊びました。夏涼しく、冬暖かくて良かったです。今では塞いでいて入ることはできません。

◆井戸の水



我が家は皆長寿で、それはこの井戸水のおかげでもあるのです。今も使っています。下に龍の口があって水が出るようになっていて、知っている方はペットボトルで汲みに来ますよ。お水を研究しているお坊様から「お水を大事に下さい」と言われました。ミネラルが入っているお水は貴重なのです。ここの山のところから岩盤を通ってくる水なので細胞のすみずみに入っていき感じで、とても大事にしています。飲み水としても保健所の方から許可をいただいています。

◆祖父の思い出

祖父は長生きしていたので、昔のことをよく話してくれました。お正月は餅つきをして、お味噌やお茶も自宅で作っていました。この辺りはかご屋さん、お米屋さん、鍛冶屋さん、それに鶏をさばく家もありました。私は小さかったので、鶏を持たされたことはないのですが、皮とか身とか全部きれいになったのを受け取りに行きました。自身の中に黄身が2つも入っていた時はとても嬉しかったです。また、お蕎麦を作ってくれる家があって、粉を持っていくと機械が動いて最後に細くきれいなお蕎麦になって出来上がってくるのをずっと見ていました。

我が家も祖父が日露戦争で手を負傷し、左手が不自由になり、お茶碗を持つのが大変で農作業も出来なくなって、タバコ屋を

楽しみの一つとして行っていました。店番をしながら人と話すことが良かったのでしよう。私もよくお手伝いをしました。私は真面目で物知りで優しい祖父が大好きでおじいちゃん子でした。

◆ヤストモ

今は「ヤストモ」と言ってもわからないかもしれませんが、祖父は傷痍軍人で、その仲間たちと、「何とか生活をさせてあげたい」と戦後復員してきた皆さんのために率先してお店作りに尽力しました。「ヤストモ」とは「靖国神社友の会」の略です。田園都市線を降りてすぐ、今のロータリーのところです。本屋さん、時計屋さん、肉屋さんなど十軒くらい入っていました。南武線の駅から田園都市線までは離れていましたから、歩いていく通路に仲見世のように作ってありました。祖父は皆さんから、だいぶ感謝されたそうです。「ヤストモ」は再開発まで続けていました。

◆久本神社

久本は久本神社を中心に1つにまとまっていると言っても良いくらいです。この地区の中心にあっていろいろな行事を行っています。

昔から続く岡医院がありまして、6代目の岡重孝先生が立派な方で、昔で言う七ヶ村連合村会副議長でその後に高津村村長になり、祖父はこの先生から漢文謡い、習字

等を習ったそうです。8代目の道孝先生が戦後初の久本町会長だったのですが、「戦争で皆落ちこんでいるから明るく生きていこう」という趣旨でこの辺りでは一番先に盆踊りを久本神社で行いました。岡先生の弟が「久本音頭」という歌も作り、浴衣も揃いのものを作り、町中が活気づきました。



盆踊り大会 久本神社新築記念誌
昭和59年刊より

岡家は町の発展になくはならない存在で、その意志を継いで祖父も父も主人も町のことを行っていたと思います。久本神社は整備が行き届き、若い方のお参りも増えています。

山が後ろにあり、鎮守の森のようで「久本神社はいいね」と皆さんに言われます。神社は町の中心、身体でいうところの「おへそ」の位置。先代の意志を継いで私達はそこに魂を入れていければと思っています。

◆遠い記憶

マルイができてから溝口は大きく変わりました。ここ20年くらいで見違えました。溝の口駅は、昔はカンナの花が咲く駅でね。

今は雨が降っても水浸しになるようなこともなくなりましたし、多摩川もきれいになりました。小学校6年生の時、多摩川の土手を駅伝のようにして走りました。多摩川では泳いでる友達もいましたね。

11月には宗隆寺の御会式があって祖父に連れられて行きました。寒くてね。今の文教堂のところに呉服屋の亀屋さんがあってカーディガンを買ってもらいました。妹達には「お姉ちゃんだけ」と言われましたけど、おじいちゃん子で本当に可愛がってもらいましたから。今となってはとても懐かしい思い出です。

(平成29年10月30日取材)